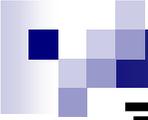


平成23年度 環境省
「びんリユースシステム構築に向けた実証事業」

九州圏におけるびんリユースシステム構築事業
事業報告書

事業主体

Rびん推進九州プロジェクト



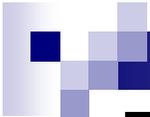
事業の目的

環境省より平成15・16年度に採択された、南九州における900ml茶びんのリユースモデル事業は、平成22年度実績で11社が採用され約150万本が全国に出荷されている。九州内では約81万本が出荷され70%程度が回収され再使用されていることなど一応の成果を上げている。また、この南九州のリユースびん事業は900mlびんだけでなく720ml・500ml・300mlのリユースびんにも波紋が広がっているのが現状である。

しかし、南九州地域中心の事業展開ではメーカー・酒類卸・小売・業務店・一般消費者・自治体等にとってメリットが小さいのが大きな課題であり、この課題を解決するには段階的に九州全体に広げることが重要である。

今回の事業は、一大消費地福岡県（人口約500万人）の中心を担う福岡市（人口約150万人）に的を絞り、びん容器の流れとともに実態を詳しく調査し、実証事業参加者にリユースシステムを確立するための課題及び問題点を整理共有化し、リユースシステム構築に向けた合意形成をいただくことが大きな目的である。

この目的が達成されれば、九州圏での静脈的な流れ、すなわち縦軸(福岡・熊本・鹿児島)が大きく形成され、九州全体に広がることが確実となる。



事業の実施体制

Rびんを九州全体に広げるイメージで、九州硝子壺商業組合の各県から選出された理事等を中心にプロジェクトメンバーを編成した。

田中(熊本県)、林田(長崎県)、倉本(福岡県)、池田(宮崎県)、長松(大分県)

事業全体のアドバイザーを、

熊本学園大学 社会福祉学部 教授 宮北隆志氏とした。

事務局の設置

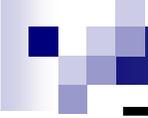
水俣市 浜松町5番8号

株式会社 田中商店 水俣営業所内 TEL 0966-69-2711

Rびん推進九州プロジェクト事務局 担当(田中・江口)

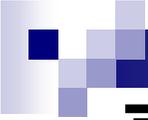
事業の実施場所

福岡県 福岡市



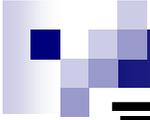
事業の内容

- 1、「福岡地域におけるリユースびん推進会議」を二回実施する。
 - ・ リユースびん推進会議の構成メンバーを決定する。
 - ・ 第一回目は、エンドユーザー(居酒屋・酒販卸・小売・環境団体・生協・自治体など)のメンバーで構成し、リユースびんの必要性について合意する。
 - ・ 第二回目の会議は、第一回目の参加メンバーに大手酒造メーカー・製びんメーカー・レンタルP箱会社等を交え、福岡地区のびんリユースシステム実現に向けて合意する。
- 2、Rびん推進チラシ他を、酒販店及び各種団体にて配布し、リユースびんの認知度を向上させる。
 - ・ 業務用酒販店を通して、居酒屋等にリユースびん推進事業の説明をしてRびんチラシを配布していただく。



事業の内容

- 3、 居酒屋・酒販卸・酒販小売・びん商等のリユースびんについての実態調査及びヒアリング。
- 4、 居酒屋・酒販店に対して、「Rびん応援店」を募集して抽選にて、Rびん応援緑提灯をプレゼントする。
- 5、 大手酒造メーカーへのリユースびん採用についての情報交換の実施。
 - ・リユースびんの現状 ・リユースに対応する設備
 - ・ワンウェイびんとリユースびんのコスト比較
 - ・商品販売先(九州外、九州内)の出荷比率
 - ・環境対策の取り組み ・企業の社会的責任



事業のスケジュール

- ・10月～2月 Rびん推進九州プロジェクト会議(5回)
- ・10月～2月 Rびんチラシ、Rびん応援店募集チラシ、Rびん提灯の作成及び配布
- ・10月～11月 福岡地域の酒販卸・小売・居酒屋・びん商等の実態調査、ヒアリング
- ・11月28日 「第一回福岡地区におけるリユースびん推進会議」
- ・12月～1月 Rびん応援店募集
- ・1月～2月 Rびん提灯配布
- ・2月16日 「第二回福岡地区におけるリユースびん推進会議」
- ・2月末 実証事業報告書の作成

事業の実施(報告)

1、福岡地域におけるリユースびんの実態や意見

【居酒屋】

- ・廃びん処理は、酒販店が持ち帰っていただくので困ってはいない。
- ・保管スペースの関係上、商品はP箱で納品してほしい。
- ・酒造メーカーは、容器の回収責任を負うべきではないか。
- ・容器を返却するのに手数料がない。

【酒販小売】

- ・使い捨て容器が多くなり、廃棄物処理費用に頭を悩ませている。
- ・焼酎「黒」は有料で回収してるのでリユースできてると思っていた。
- ・地代が高いので、有料の焼酎びん「黒」だけ保管している。
- ・焼酎「黒」はリユースびんだが、量が少ないので扱いにくい。
- ・リユースびんを選別しないので、空P箱が邪魔になっている。
- ・法律により、酒造メーカーが容器の引取り責任を負うべきだ。

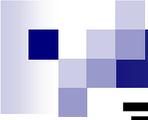
事業の実施(報告)

【酒販卸】

- ・規制緩和の流れで、酒だけの卸では成立たないため、食品業界とタイアップしないと生き残れない。
- ・びん容器が主流の時代は、卸としての価値が存在したが、使い捨て容器が主流となり、現在はメーカーからの一方的な物流で効率も悪いし物流費が嵩む。
- ・900mlのRびんは小売店サイドで回収されず、空のレンタルP箱だけが返ってくる状況で、保管及び管理費用で困っている。

【びん商】

- ・一升びん、ビールびんの回収手数料では、業として成り立たない。
- ・定期的に酒販小売店を回っているが、リユースびんが少ない。
- ・空レンタルP箱は回収しても手数料がほとんどない。
- ・静脈産業として存在する全国のびん商組織も、このままでは崩壊する。



事業の実施(報告)

【自治体】

- ・容器包装リサイクル法施行以後、ごみ処理コストが大幅に増大し財政を圧迫している。
- ・容器包装廃棄物に対しての排出事業者の責任を明確にすべき。
- ・九州は、本格焼酎を愛飲される土壌であるので、リユースシステムは構築しやすいのではないか。
- ・ごみ減量や地産、地消に繋がるリユースびん事業は応援したい。

【環境団体】

- ・環境省の政策提言事業に、今回事業で得られたものや論議されたことを発信しましょう。
- ・リユースびんの利点を、もっと消費者にアピールすべきではないか。
- ・消費者にリユースびん使用商品の方が、安く買える仕組みが必要。
- ・現状では、ごみの発生抑制に繋がっていない。EPRの観点から仕組みを変える必要がある。

事業の実施(報告)

2、「福岡地域におけるリユースびん推進会議」の内容

【第一回】平成23年11月28日 福岡合同庁舎内 共用第一会議室 19名

- ・実証事業の概要説明
 - ・福岡地域の実態報告
 - ・全国のリユースびん実態報告
 - ・意見交換
- 議事録添付

【第二回】平成24年2月16日 福岡合同庁舎内 共用第五会議室 21名

- ・実証事業の再確認
 - ・メーカーとの意見交換会報告
 - ・実証事業のまとめ
 - ・第一回会議の報告
 - ・意見交換
 - ・今後の事業について
- 議事録添付

3、Rびんチラシ、Rびん応援店募集、Rびん応援提灯の配布

- ・Rびんチラシ 作成数(7,000枚) 配布数(5,000枚)
- ・Rびん応援店募集チラシ 作成数(2,000枚) 配布数(1,800枚)
- ・Rびん応援店提灯 作成数(150個) 配布数(16個)
- ・Rびん推進チラシ(飲食業向け) 作成数(200枚) 現在も配布中

事業の実施(報告)

4、焼酎メーカーとのリユースびん採用についての意見交換等 3社

【K社】・900mlRびんは現行使用びんより重い(30g)ので流通でコストアップ。

- ・製造ラインに自動検液器(カメラ検査)を導入しているため、リユースびんのキズを異物として反応してしまう。

- ・リユースびんは、商品の生産効率が悪い。

- ・環境負荷軽減策として、びんの軽量化が一つの方向性である。

【S社】・軽量のリユースびんでなければ検討できない。

- ・販売エリアが九州外(80%)ですのでメリットが少ない。

- ・ラインの変更等に伴い設備投資が必要になる。

【S社】・現行900mlびんは弊社独自の白びんを使用している。

- ・中容量びんはリユースびんが少ないので、キズ等の品質面のクレームが多くなるのではないか。

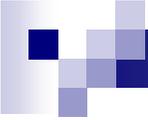
- ・リユースびんはP箱レンタルで回すので、商品のほこりが気になる。

福岡リユースびん推進会議風景



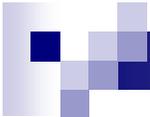
Rびん応援店(緑)提灯を掲げた居酒屋





事業の成果

- 1、リユースびん推進九州プロジェクトの編成により、一つの大きなテーマに向けて、連携して事業に取り組んだこと。
- 2、Rびんチラシ、Rびん応援店募集チラシ、飲食業向けRびんチラシ、Rびん応援店(緑提灯)等の、次年度以降に使用できるキャンペーンツールが整った。
- 3、福岡地区の廃びんについて、居酒屋・酒販卸・小売・びん商等の実態が把握できたこと。
- 4、二回の「福岡地域におけるリユースびん推進会議」開催によって関係者との合意形成ができ、今後の推進体制が整った。
- 5、「Rびんを広めよう会・福岡」、「Rびんを広めよう会・鹿児島」仮称の動きが生まれている。



今後の検討課題

1、リユースびんの普及

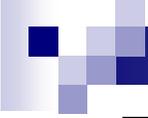
Rびんのキャンペーンツールを使って、九州圏の酒販卸・小売・自治体・関係団体を通じて、対象地域の各業界及び一般消費者にリユースびんの更なる普及啓発を行う。

2、リユースびん採用メーカーの拡充

九州硝子壺商業組合加盟の各県びん商を通して、また各地域の酒販卸・小売等の協力を経て、清酒・焼酎メーカーに要望を提出し協力を仰ぐ。

3、リユースびんを推進するための円卓テーブルの構築

今回の福岡地区リユースびん推進会議のような、リユースびんに特化して関係者が集まり意見交換する場の設定。



事業終了後の展開

- 1、Rびん推進実施地域の連絡調整窓口を創る。
- 2、各県で「Rびんを広めよう会」仮称の結成を支援する。
- 3、Rびん使用量の多い南九州で採用メーカーを増やす。
- 4、Rびん採用メーカーの商品をグリーン購入商品としてPRする。
- 5、グリーン購入ネットワーク九州との連携を図る。
- 6、九州管内の清酒・焼酎メーカーのびん使用状況調査を実施。

平成23年度 環境省
「びんリユースシステム構築に向けた実証事業」

九州圏におけるびんリユースシステム構築事業
事業報告書

以上で報告を終了いたします。

Rびん推進九州プロジェクト事務局
株式会社 田中商店 田中利和